

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第64集

中原遺跡群

NASHINOKI

梨の木遺跡Ⅳ

長野県佐久市中込中原遺跡群梨の木遺跡Ⅳ発掘調査報告書

1998.3

有限会社サンエイ開発
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第64集

中原遺跡群

NASHINOKI
梨の木遺跡Ⅳ

長野県佐久市中込中原遺跡群梨の木遺跡Ⅳ発掘調査報告書

1998.3

有限会社サンエイ開発
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、有限会社サンエイ開発が行う宅地造成事業に伴い、平成9年度に行った中原遺跡群 梨の木遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。
- 2 調査委託者 有限会社サンエイ開発
- 3 調査受託者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名および所在地
中原遺跡群 梨の木遺跡Ⅳ(NNN Ⅳ)
佐久市大字中込字梨の木 3768-1
- 5 調査期間および面積
発掘調査 平成9年12月8日～12月16日
整理調査 平成10年1月29日～3月31日
面積 744㎡
- 6 本書の編集・執筆は三石宗一が行い、第Ⅱ章 第1節自然環境については『梨の木』(1987)「第Ⅱ章 第1節 自然環境」の内容を一部引用して掲載した。
- 7 本書および梨の木遺跡Ⅳ出土遺物等のすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略号は以下のとおりである。
土坑-D 溝状遺構-M ピット-P
- 2 遺構番号は梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱからの継続番号を用い、第32号土坑～、第8号溝状遺構～P15～とした。
- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。
土坑-1/60
土器-1/4 鉄製品-1/2・1/3
- 4 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水糸標高を「標高」として記した。
- 5 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいて示した。
- 6 写真図版中の遺物の縮尺は1/2とし、番号は挿図番号と対応する。

目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第Ⅱ章 遺跡の環境	3
第1節 自然環境	3
第2節 歴史的環境	4
第Ⅲ章 基本層序及び概要	7
第1節 基本層序	7
第2節 検出遺構・遺物の概要	8
第Ⅳ章 遺構と遺物	9
第1節 土 坑	9
第2節 溝状遺構・ピット	17
第Ⅴ章 調査のまとめ	19

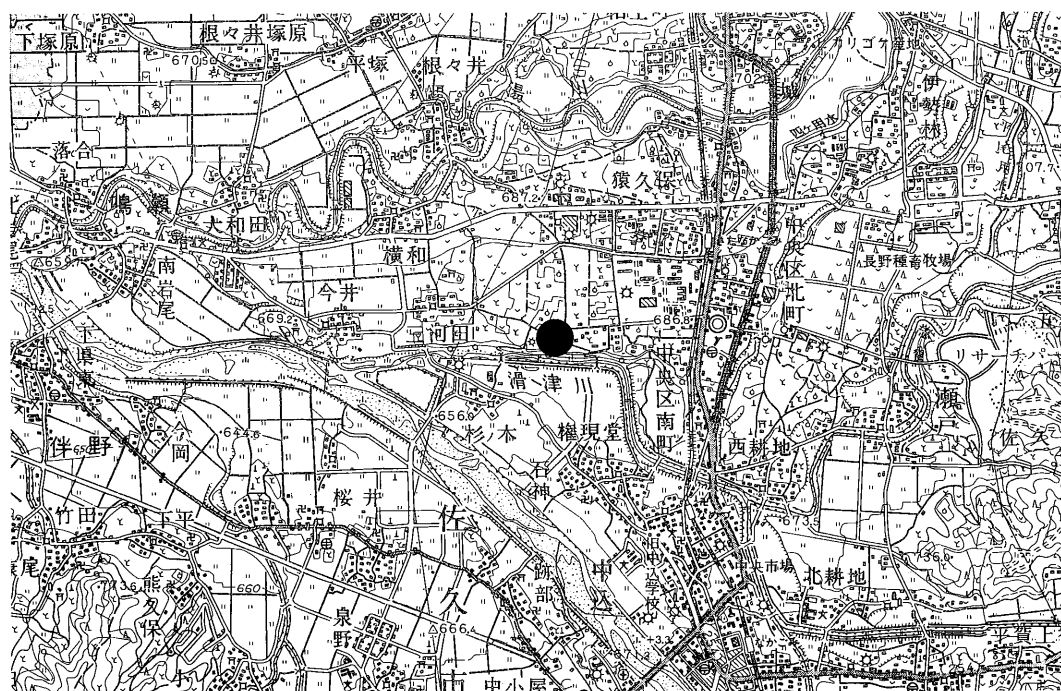
写真図版

第 I 章 発掘調査の経緯

第 1 節 調査の経緯と経過

中原遺跡群梨の木遺跡は佐久平の中心部、佐久市中込に所在し、千曲川の支流滑津川右岸の切り立った段丘上に立地する。標高は約680mで、滑津川河床からの比高差は約30mを測る。遺跡群内南西端には佐久地方最大の規模を誇る三河田大塚古墳が南側に開口して存在し、昭和58・59年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が表面採集されている。また、今回の調査区の北側に隣接する梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱでは、弥生時代の土坑・溝状遺構、中近世の竪穴状遺構・土坑等が検出されている。以上のことから、本調査区においても縄文時代から近世の遺構の存在が予想された。

今回、有限会社サンエイ開発により宅地造成事業が計画され、12月3日に試掘調査を行った。その結果、遺構の存在が確認されたため、有限会社サンエイ開発と佐久市教育委員会において協議を行い、記録保存を目的とする発掘調査を実施することとなった。



第 1 図 梨の木遺跡Ⅳ位置図 (1 : 50,000)

第2節 調査体制

◎調査受託者

教 育 長 依田 英夫

◎事務局

教 育 次 長 市川 源

埋蔵文化財課長 須江 仁胤

管 理 係 長 榎沢 慶子

埋蔵文化財係長 大塚 達夫

埋蔵文化財係 林 幸彦、三石 宗一、須藤 隆司、小林 眞寿、羽毛田卓也、
富沢 一明、上原 学

調 査 担 当 者 三石 宗一

調 査 主 任 森泉かよ子

調 査 員 上原 幸子、小幡 弘子、小林 幸子、小林 立江、佐藤 愛子、
林 美智子、水間 雅義、宮川百合子、柳沢千賀子

第3節 調査日誌

平成9年12月3日

試掘調査。

12月8日

重機による表土削平作業。

12月9日

重機による表土削平作業終了。

遺構検出作業・掘り下げを開始する。

12月10日

測量基準杭設置。遺構掘り下げ・実測作業。

12月11日

遺構掘り下げ・実測作業。

12月12日

実測作業・機材撤収を行う。

12月15・16日

重機により埋め戻しを行う。

平成10年1月29日～3月31日

遺構・遺物の挿図作成、原稿執筆、編集
を行い、報告書を刊行する。



第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久平は千曲川の上流沿岸平地で標高700m付近を中心として、北は小諸市、南は南佐久郡佐久町を長軸として南北約18km、東西は佐久市中心部で幅約10kmの長菱形をしている。この長菱形の長い対角線上を千曲川が北に向かって流れており、短い対角線は佐久市地域にあり、幅としては最も広い部分にあっている。

佐久平と総称しているが、地質学的成因については南北二区分に別れている。境界線は志賀川が滑津川下流と合流して千曲川に注ぐ東西線を境として滑津川河床で標高650m、北岸段丘上で680m、比高30mの断崖が続いている。これは旧南北佐久郡境でもあり、南部の野沢平、北部の岩村田台地と明らかな相違を見せている。

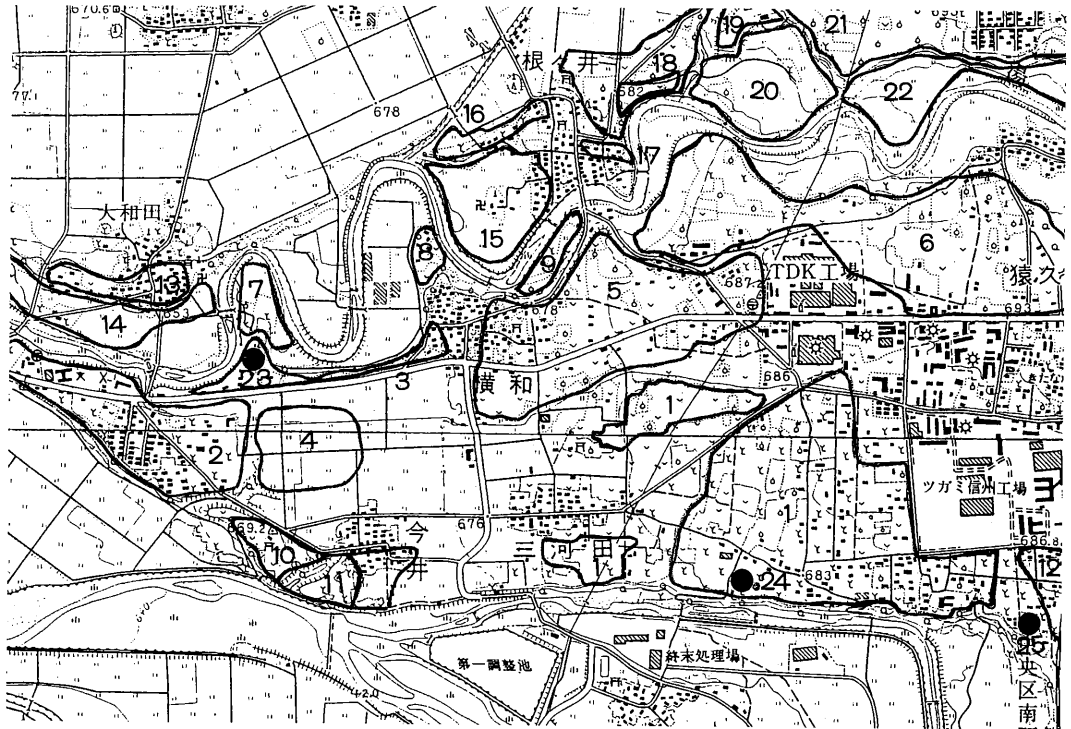
南部野沢平は主として千曲川の氾濫原沖積地と内山川の谷口扇状地で、全体的には河床礫層と沖積粘土層地帯で地下水位も高く、用水も古くから拓かれて安定し土地肥沃なために水稲多収穫地帯である。

北部は中込原から岩村田中佐都地区で、浅間火山の山麓末端の台地状平地で基盤には浅間火山第一次外輪山黒斑山の大噴火による塚原泥流が中佐都付近で流山を百余形成しており、その上部へは第二次外輪山前掛山の長期の活動に基づく追分第一軽石流（P1）が厚く被っている。この層は新期火山噴出堆積層のために雨水による浸蝕が激しく、流水による浸蝕谷“田切り地形”が発達し、御代田町から岩村田地区まで、西は小諸市懐古園付近まで深い垂直の谷を形成している。このP1層の地表面には凹凸もあり、湯川を堰き止めた湿地にその後の火山灰砂・流入軽石礫が堆積したものが所謂新期の“湯川層”として上面を被っている。これらの地層が佐久平北半の堆積層序となっており、特に中込原付近では地下水層は極端に低く生活用水が得られなかったため、古くは人家もなく桑畑、野菜畑のみであった。

梨の木遺跡は中込原、滑津川沿いの段丘上の末端部に位置する遺跡で、発掘調査によってローム層（第Ⅱ層）下に湯川層湿地堆積層（第Ⅲa～Ⅲc層）が確認された。



梨の木遺跡Ⅳ遠景（南方より）



第2図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)

第2節 歴史的環境

中原遺跡群は湯川と滑津川に挟まれた東西に長い段丘上に位置し、この段丘上には第2図で示したように大規模な遺跡群が密集して存在している。湯川に面した台地の北側には白山遺跡群(2)・寄塚遺跡群(3)・今井西原遺跡(4)・宮の上遺跡群(5)・寺畑遺跡群(6)などがあり、滑津川に面した台地の南側には本遺跡群の他、今井宮の前遺跡(10)・大塚遺跡群(12)などの弥生時代から平安時代を中心とする遺跡群が展開している。

これらの遺跡群の発掘調査を概観すると、昭和49年に一部調査された今井西原遺跡で、小型器台など古墳時代前期後半と考えられる良好な土器群を出土した住居址2棟、古墳時代後期から平安時代の住居址5棟が検出され、昭和62・63年に調査された宮の上遺跡Ⅰ・Ⅱで奈良・平安時代の住居址7棟等が調査されている他、平成6・7年に寺畑遺跡Ⅰ・Ⅱの発掘調査が行われ、竪穴住居址3棟・竪穴状遺構2棟が検出され、縄文時代草創期の爪形文土器・石器が出土している。また、寺畑遺跡の北側、湯川の第一段丘上に位置する仲田遺跡では竪穴住居址30棟、掘立柱建物址9棟等が調査され、奈良時代の花卉双蝶八花鏡が出土している。昭和50年には宮の上遺跡群高根遺跡の発掘調査が行われたが、狭小な調査面積のためか遺構は検出されなかった。

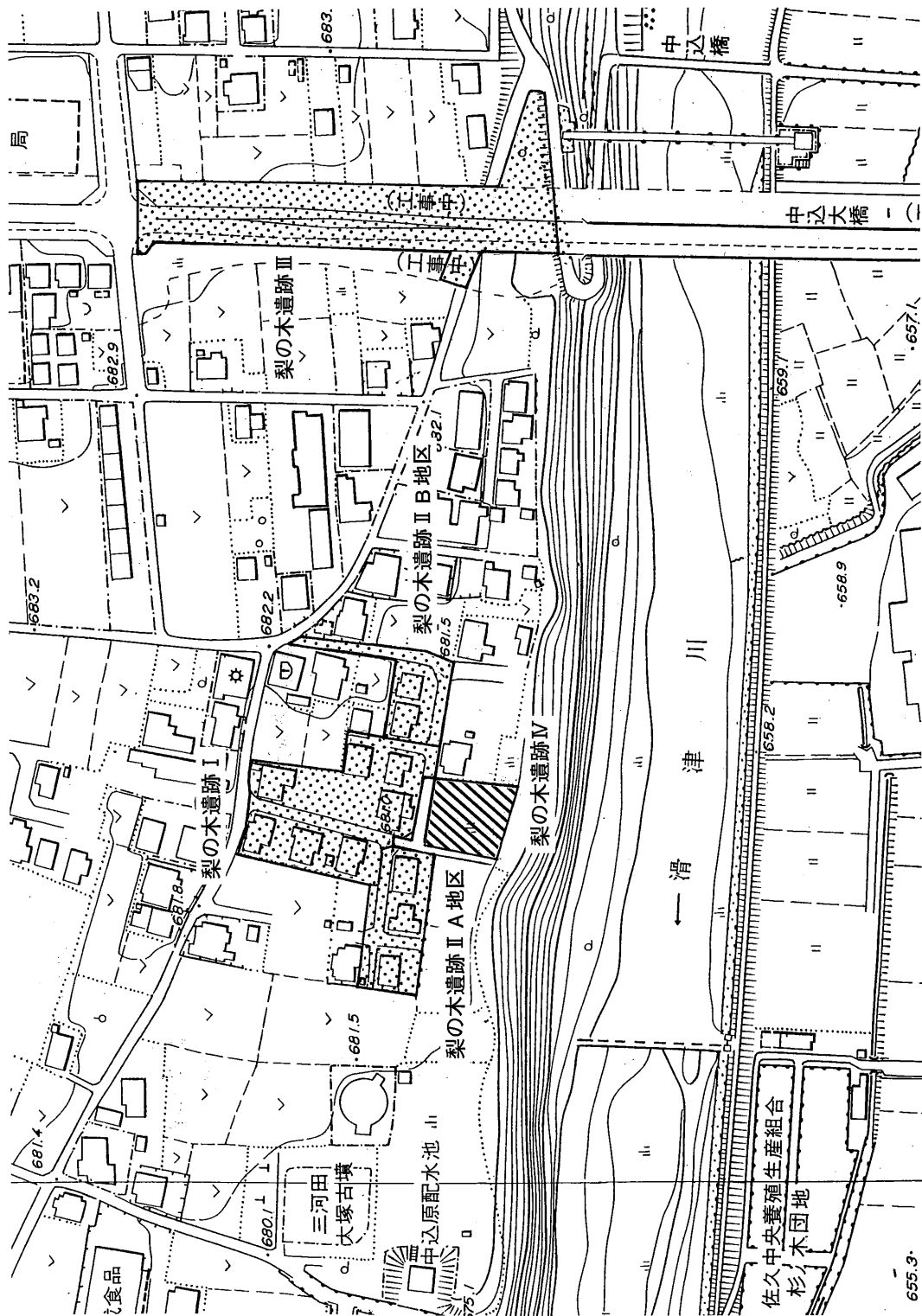
周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	立地	縄	弥	古	奈	平	中	備考
1	中原遺跡群	中込字梨の木・大塚・曲坂他 今井字大塚・新田前・荒子他	2段丘	○	○	○	○	○	○	本調査 昭和62・63、平成8年度 調査 梨の木Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
2	白山遺跡群	鳴瀬字白山・冷間、三河田字下原	2段丘	○	○	○	○	○		
3	寄塚遺跡群	横和字寄塚・鶴巻	2段丘		○	○	○	○	○	
4	今井西原遺跡	今井字九反田他	2段丘			○	○	○		昭和49年度一部発掘調査
5	宮の上遺跡群	横和字宮の上・一本松・ 南辰の口・西供養塚他	2段丘	○	○		○	○		昭和50年度一部調査 高根遺跡 昭和62・63年度調査 宮の上Ⅰ・Ⅱ
6	寺畑遺跡群	根々井字寺畑・山下・山の神他	2段丘		○	○	○	○		平成6・7年度調査 寺畑Ⅰ・Ⅱ
7	鍛冶田遺跡	横和字鍛冶田	1段丘		○	○	○	○	○	
8	北久保遺跡	横和字北久保	1段丘			○	○	○	○	
9	赤石河原遺跡	根々井字赤石河原・赤石他	1段丘		○			○		
10	今井宮の前遺跡	今井字宮の前・面・居屋敷他	2段丘					○	○	
11	今井城跡	今井字城・前田	2段丘						○	
12	大塚遺跡群	中込字大塚・西大塚・立石	2段丘		○				○	
13	大和田屋敷遺跡群	鳴瀬字屋敷・ついじ	1段丘		○	○				
14	大和田遺跡群	鳴瀬字大和田・川原端他	1段丘	○	○	○				平成8年度調査 川原端遺跡
15	根々井居屋敷遺跡	根々井字居屋敷	1段丘		○	○	○	○		
16	日向屋敷遺跡	根々井字日向屋敷	2段丘		○	○	○	○		
17	伊勢田遺跡	根々井字伊勢田	1段丘		○					
18	鳴澤遺跡群	根々井字鳴澤・東坂上他	1段丘	○	○	○	○	○		平成9年度調査 五里田遺跡
19	北西の久保遺跡	岩村田字北西の久保	2段丘		○	○	○	○	○	昭和44・45・54・57・60年度発掘調査 により台地上全面破壊
20	中西の久保遺跡群	岩村田字中西の久保・東西の 久保・南西の久保他	1段丘		○	○	○	○		平成4・7年度調査 中西ノ久保Ⅰ・Ⅱ
21	一本柳遺跡群	岩村田字東一本柳・下福王寺 ・東大門先・西大門先他	2段丘		○	○	○	○	○	平成3・4・7～9年度調査 西一本柳Ⅰ～Ⅵ
22	中鳴澤遺跡群	岩村田字中鳴澤	1段丘		○	○	○	○		
23	寄塚古墳	横和字寄塚	2段丘			○				
24	三河田大塚古墳	三河田字大塚	2段丘			○				
25	蟹ヶ沢古墳	中込字蟹ヶ沢	2段丘			○				

古墳は北側の湯川に面して寄塚古墳(23)、南側の滑津川に面して三河田大塚古墳(24)・蟹ヶ沢古墳(25)が存在する。特に本遺跡群の南西端にある三河田大塚古墳は、墳丘高約5m、墳丘径30m、玄室は長さ6.3m・幅2.1m・高さ2.9mの両袖式の横穴式石室をもつ古墳で、その規模とともに保存の良好な点においても佐久平はもとより県内でも屈指の古墳である。

本遺跡群内では、今回の調査区の北側に隣接する梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱの発掘調査が昭和62・63年度に行われ、弥生時代の土坑・溝状遺構、中近世の竪穴状遺構・土坑等が検出された。また、今回の調査区の東方約200mに位置する梨の木遺跡Ⅲからは、竪穴状遺構・土坑・柱穴址・溝状遺構等多数の遺構が検出され、流水秋草双雀鏡等が出土している。

以上が中原遺跡群とそれを取り巻く遺跡群の概況である。この付近は国道141号バイパスの開通に伴い、発掘調査が徐々に増加している地域ではあるが、当台地上については未解明な部分が多く、今後の調査に多大な期待が寄せられるところである。



第3図 梨の木遺跡IV発掘区設定図 (1 : 2,500)

第Ⅲ章 基本層序及び概要

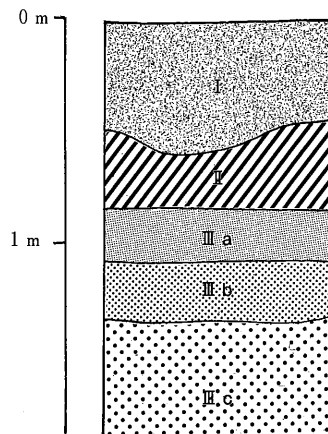
第1節 基本層序

梨の木遺跡は湯川と滑津川に挟まれた段丘上の滑津川に面した南端部に位置し、標高は680m内外、滑津川河床との比高差は約30mを測る。

梨の木遺跡を含む三河田地区一帯は、浅間山黒斑火山の噴出物・追分第一軽石流(P1)が被覆する地域としては最も南端にあたり、この地域を境として南側の中込・平賀・野沢などの各地区の土壌は強粘土質に一変する。

遺跡の基本層序は第4図に示したとおりであり、第Ⅰ次・第Ⅱ次調査と同様な土層の堆積状況が確認された。第Ⅱ層火山灰層は40~50cmの厚さで今回の調査区の全面を覆っており、第Ⅱ層下には湯川層とされる水平な砂層(Ⅲa~Ⅲc)層の堆積が認められた。

- 第Ⅰ層 にぶい黄褐色土 (10YR 4 / 3)
 耕作土。
- 第Ⅱ層 黄褐色土 (10YR 5 / 8)
 火山灰層。
 径3~30mmの軽石を多量に含む。
- 第Ⅲ a層 褐灰色土 (10YR 6 / 1)
 湯川層。
- 第Ⅲ b層 黄褐色土 (10YR 5 / 8)
 湯川層。
- 第Ⅲ c層 黄褐色土 (10YR 5 / 8)
 湯川層。

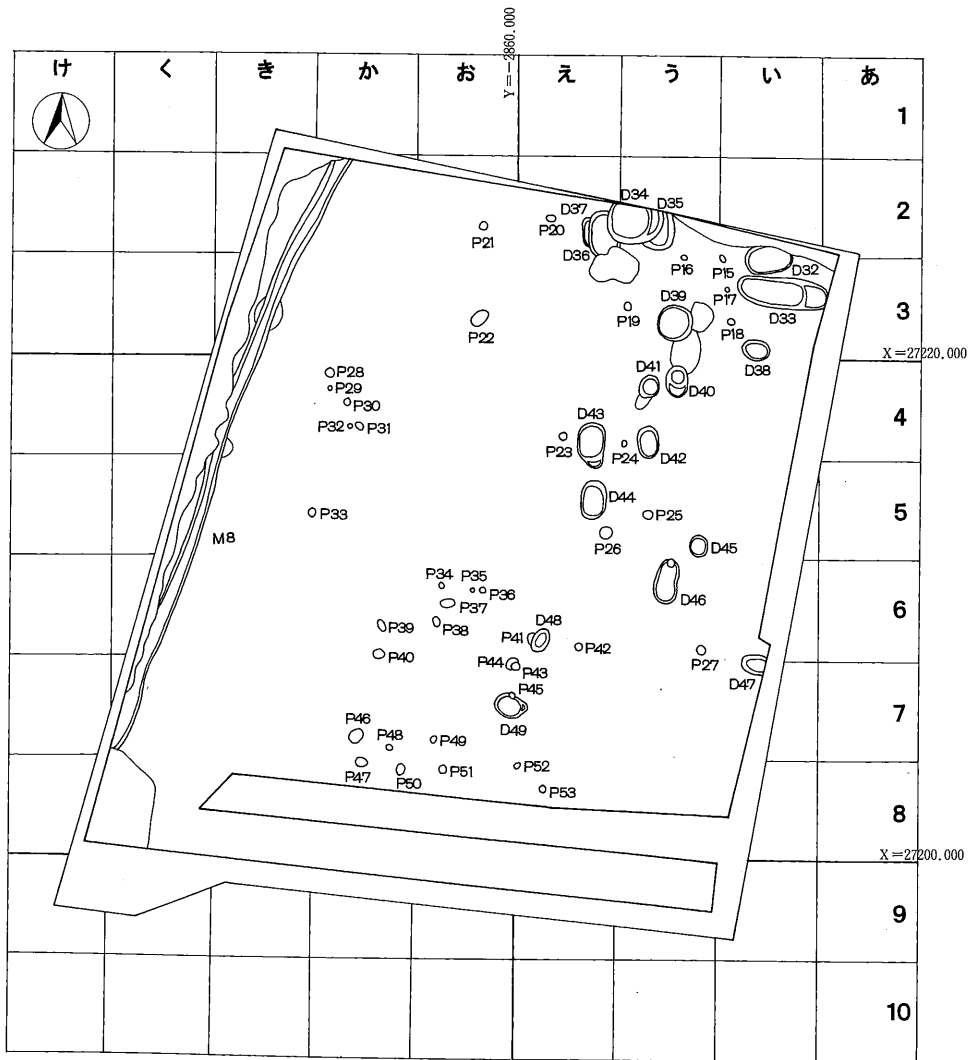


第4図 基本層序模式図

第Ⅱ層上面が遺構の確認面であるが、第Ⅲa層~Ⅲc層・砂層まで達しているものもあった。遺構の覆土はローム・砂粒を含み、第Ⅰ層耕作土と近似した土層で構成されるものが多く、本遺跡から確認された遺構の大半は中世以降に構築されたものと推察される。

第2節 検出遺構・遺物の概要

検出遺構 土 坑-18基 溝状遺構-1条 ピット-39基
 出土遺物 土 師 器-坏・甕
 土師質土器
 陶 器-甕
 鉄 製 品-釘・苧引金具・鋸



第5図 梨の木遺跡IV全体図 (1:300)

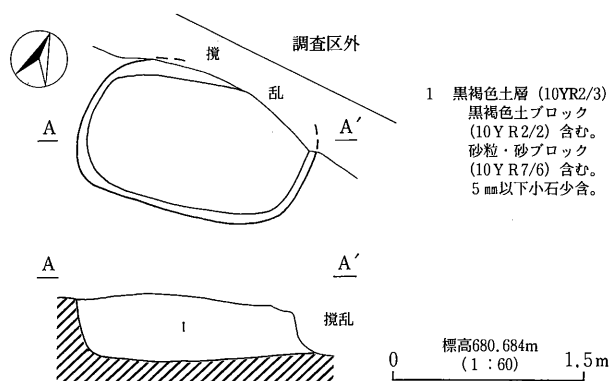
第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 土坑

1) 第32号土坑

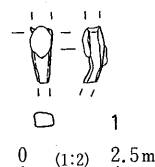
本址は調査区北東端、いー2・3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、北側を撓乱によって破壊されているため遺構の全容は確認し得ないが、検出部分より東西182cmを測り、南北120cm前後の隅丸長方形を呈するものと思われる。長軸方位はN-88°-Eを示す。底面は平坦で、壁体は底面からほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは50cmを測る。

覆土は砂粒・砂ブロック・小石を含む黒褐色土層1層からなる。



第6図 第32号土坑実測図

出土遺物には鉄釘と思われる小片(7-1)があり、墓塚としての性格をもつ遺構とも考えられるが明確ではない。



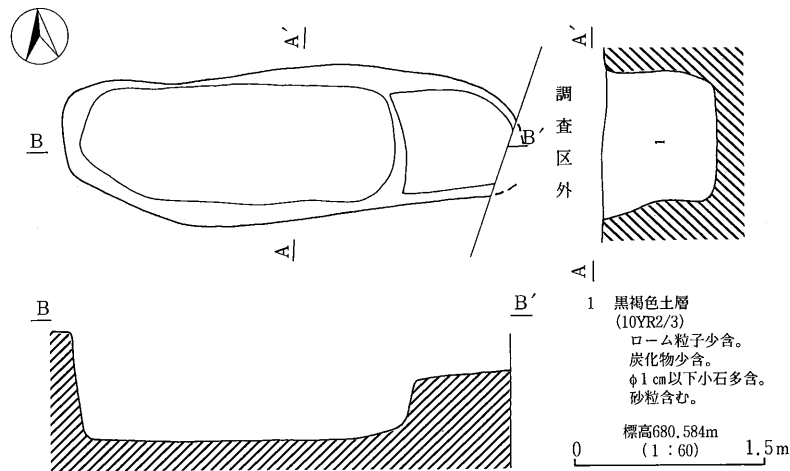
第7図 第32号土坑出土遺物実測図

2) 第33号土坑

本址は調査区北東端、いー3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。東端部がわずかに調査区外であるが、遺構のほぼ全容を確認することができた。東西370cm前後、南北120cmの楕円形を呈し、東側にテラスをもつ2段構築となっている。長軸方位はN-84°-Eを示す。確認面からの深さはテラス部分で54cm、最も深い部分で100cmを測り、壁体はほぼ垂直に立ち上がる。底面は全体層序第Ⅲa層に達しており、平坦である。覆土は炭化物をわずかに含み、砂粒・小石を含む黒褐色土層1層からなる。

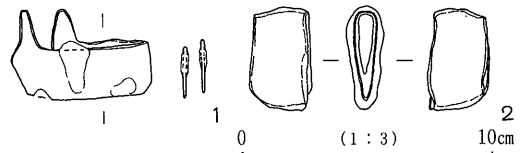
出土遺物には9-1・2の鉄製品がある。

9-1は苧引金具で、二つに折れ曲がった状態で出土した。幅9cm前後を測る。9-2は幅2cm、長径4cm前後の楕円形を呈しており、刀の関部に装着される鉋と考えられる。



第8図 第33号土坑実測図

本址は覆土に違いがみられるものの、墓塚としての性格が考えられている梨の木遺跡Ⅰ第6号土坑に規模・形態ともに近似していることから、本址も墓塚と性格付けることもできるが明確ではない。



第9図 第33号土坑出土遺物実測図

3) 第34号土坑

本址は調査区北端部、う・えー2グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。第35号土坑・第36号土坑と重複関係にあるが、本址が最も新しい。北側が調査区外であるため遺構の全容は把握し得ないが、検出部分で東西220cmを測り、隅丸方形プランが想定される。壁体は底面からほぼ垂直に立ち上がり、南側と東側にテラスを有する。確認面からの深さは南側テラス部分で57cm、東側テラス部分で97cm、最も深い部分で108cmを測る。底面は全体層序第Ⅲa層に達しており、平坦である。

覆土は6層に分割されたが、2層・4層が主体を占める。

本址からの出土遺物には土師質土器があるが、細片のため器種は不明である。

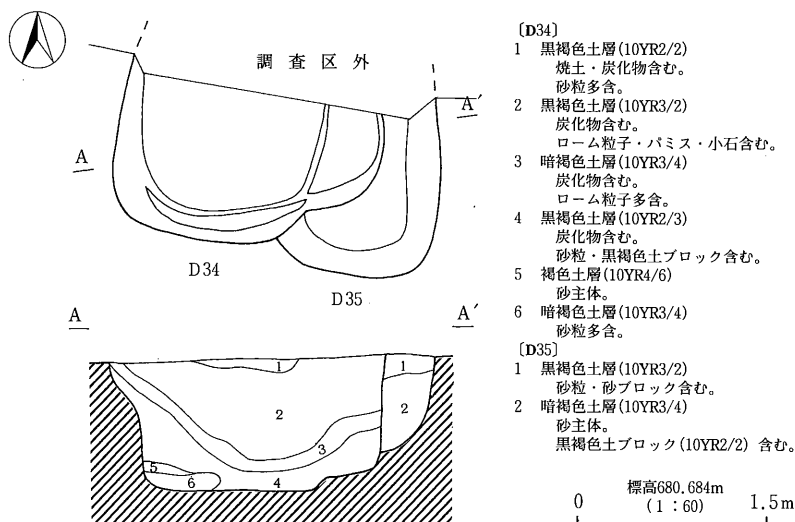
以上から、本址は中世以降の遺構と考えられるが、性格は不明である。

4) 第35号土坑

本址は調査区北端部、うー2グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。第34号土坑と重複関係にあり、西側を切られる。また、北側が調査区外であるため遺構の南側および東側の一部が確認できたのみである。検出部分で南北145cmを測り、南北170cm、東西130cm前後の隅丸長方形プランが想定される。確認面からの深さは85cmを測り、底面は全体層序第Ⅲa層に達

する。

覆土は砂粒・砂ブロックを含む黒褐色土層と砂を主体とする暗褐色土層の2層に分割された。遺物の出土はなく、時期・性格ともに不明である。



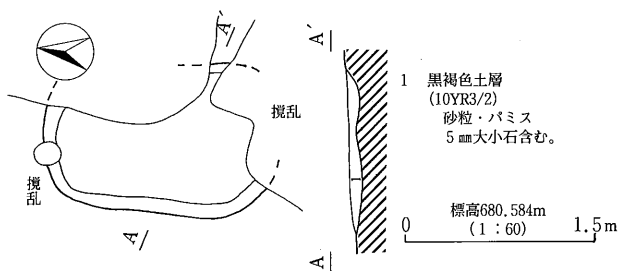
第10図 第34・35号土坑実測図

5) 第36号土坑

本址は調査区北端部、えー3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。第34号土坑・第37号土坑と重複関係にあり、第34号土坑に北東部分を切られ、第37号土坑を切って構築される。また、南側を攪乱によって破壊される。規模は東西124cmを測り、南北180cm前後の隅丸長方形プランが想定される。確認面からの深さは15cmと浅い。

覆土は砂粒・小石を含む黒褐色土層1層からなる。

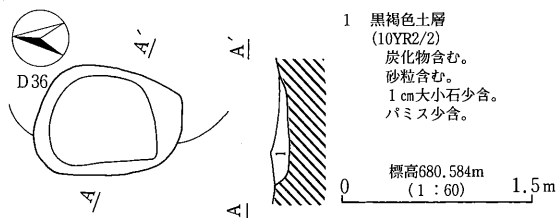
遺物の出土はなく、時期・性格ともに不明である。



第11図 第36号土坑実測図

6) 第37号土坑

本址は調査区北端部、えー3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。第36号土坑と重複関係にあり、東側上面を切られる。規模は南北120cm、東西88cmの楕円形を呈し、長軸方位はN-8°-Wを示す。



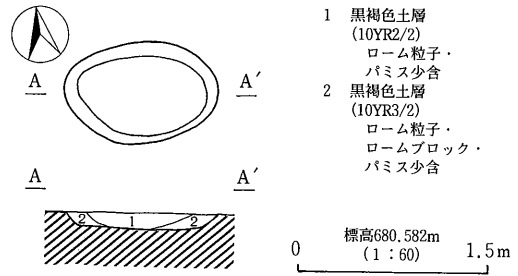
第12図 第37号土坑実測図

確認面からの深さは14cmと浅い。覆土は炭化物・砂粒を含む黒褐色土層1層からなる。
遺物の出土はなく、時期・性格ともに不明である。

7) 第38号土坑

本址は調査区北東部分、いー3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はない。東西122cm、南北82cmの楕円形を呈し、長軸方位はN-70°-Wを示す。確認面からの深さは13cmと浅く、底面は平坦である。覆土は2層に分割された。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/2)
ローム粒子・
パミス少含
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2)
ローム粒子・
ロームブロック・
パミス少含

第13図 第38号土坑実測図

8) 第39号土坑

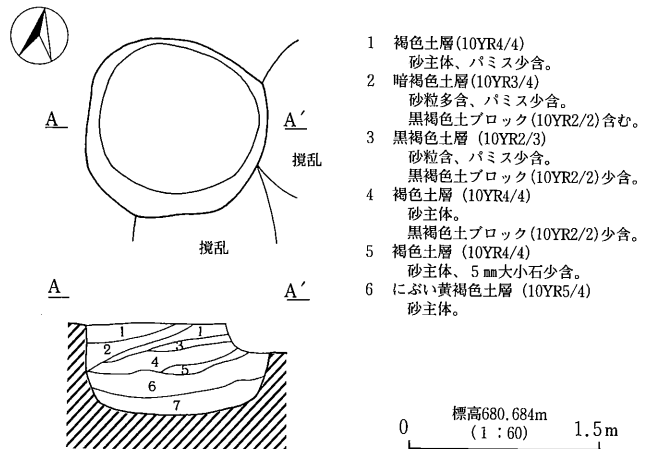
本址は調査区北東部分、うー3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、東側および南側上面を攪乱により破壊される。規模は径152cmの円形を呈し、壁体は底面からほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは73cmを測る。底面は平坦であり、全体層序第Ⅲa層に達する。

覆土は6層に分割され、堆積状況から人為埋土と考えられる。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

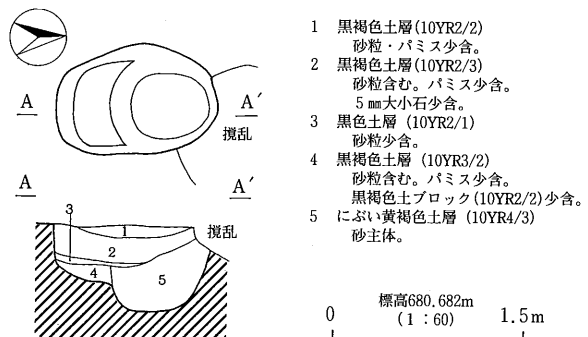
9) 第40号土坑

本址は調査区北東部分、うー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、北側上面を攪乱により



- 1 褐色土層(10YR4/4)
砂主体、パミス少含。
- 2 暗褐色土層(10YR3/4)
砂粒多含、パミス少含。
黒褐色土ブロック(10YR2/2)含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/3)
砂粒含、パミス少含。
黒褐色土ブロック(10YR2/2)少含。
- 4 褐色土層 (10YR4/4)
砂主体。
黒褐色土ブロック(10YR2/2)少含。
- 5 褐色土層 (10YR4/4)
砂主体、5mm大小石少含。
- 6 にぶい黄褐色土層 (10YR5/4)
砂主体。

第14図 第39号土坑実測図



- 1 黒褐色土層(10YR2/2)
砂粒・パミス少含。
- 2 黒褐色土層(10YR2/3)
砂粒含む。パミス少含。
5mm大小石少含。
- 3 黒色土層 (10YR2/1)
砂粒少含。
- 4 黒褐色土層 (10YR3/2)
砂粒含む。パミス少含。
黒褐色土ブロック(10YR2/2)少含。
- 5 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)
砂主体。

第15図 第40号土坑実測図

破壊される。規模は南北128cm、東西88cmの楕円形を呈し、南側にテラスを持つ2段構築となっている。長軸方位はN-3°-Eを示す。確認面からの深さはテラス部分で48cm、最も深い部分で73cmを測り、底面は全体層序第Ⅲa層に達する。

覆土は5層に分割された。

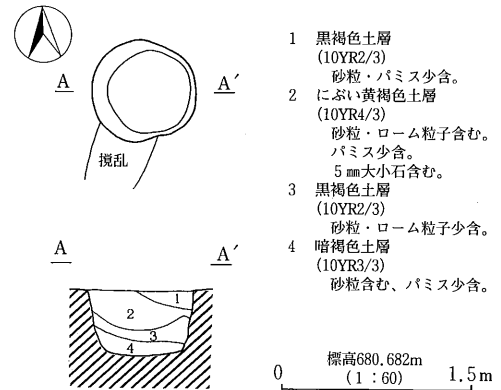
本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

10) 第41号土坑

本址は調査区北東部分、うー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、南側上面を攪乱により破壊される。規模は径84cmの円形を呈し、確認面からの深さは53cmを計測する。壁体はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦で全体層序第Ⅲa層に達する。

覆土は4層に分割された。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。



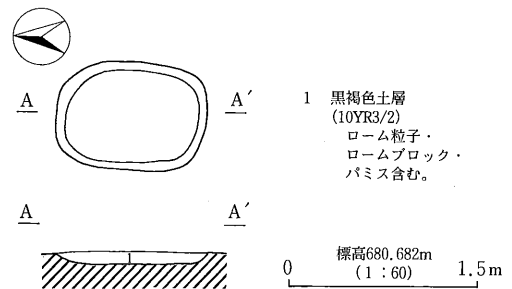
第16図 第41号土坑実測図

11) 第42号土坑

本址は調査区中央付近東側、うー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はない。規模は南北120cm、東西88cmの隅丸長方形を呈し、長軸方位はN-2°-Wを示す。確認面からの深さは11cmと浅い。

覆土はローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土層1層からなる。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

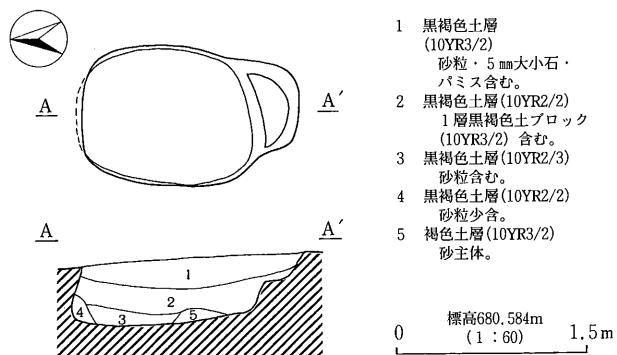


第17図 第42号土坑実測図

12) 第43号土坑

本址は調査区中央付近東側、えー4・5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はない。規模は南北174cm、東西108cmの楕円形を呈し、南側にテラスをもつ2段構築となっている。長軸方位は真北を示す。壁体はテラスのある南側を除いてほぼ垂直に立ち上がり、特に北側は「フラスコ状」にオーバーハングする。確認面からの深さは南側テラス部分で23cm、最も深い部分で58cmを測る。底面はほぼ平坦で、全体層序第Ⅲa層に達する。

このように、垂直または「フラスコ状」にオーバーハングする壁体をもつ土坑は、昭和60～62年度に発掘調査の行われた鑄師屋遺跡群前田遺跡（第一～三次）のA・B・C地区から検出された中世の土坑群の中に数多く見られ、土師質土器・陶磁器・石臼等が出土している。



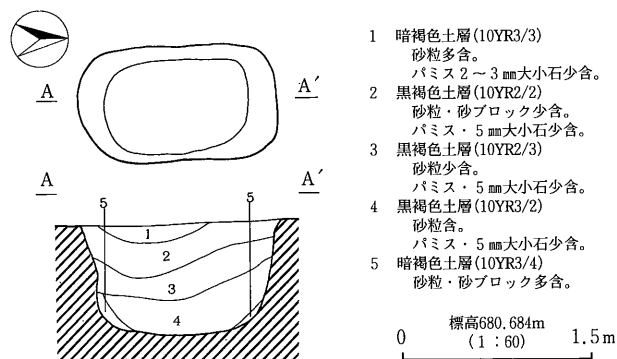
第18図 第43号土坑実測図

覆土は5層に分割されたが、1・2層が主体を占め、3・4層黒褐色土層、5層褐色土層は底面付近にみられるのみである。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

13) 第44号土坑

本址は調査区中央付近東側、えー5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はない。規模は南北160cm、東西92cmの隅丸長方形を呈し、長軸方位はN-2°-Wを示す。壁体はほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは90cmを計測する。底面はほぼ平坦で、全体層序第Ⅲa層に達する。



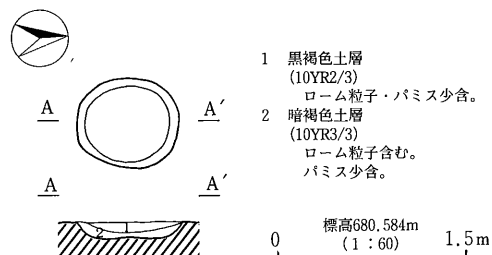
第19図 第44号土坑実測図

覆土は5層に分割されたが、5層暗褐色土層は底面付近の壁際にわずかにみられるのみである。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

14) 第45号土坑

本址は調査区中央付近東側、うー5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はない。規模は南北81cm、東西72cmのわずかに南北に長い円形を呈し、長軸方位はN-2°-Eを示す。確認面からの深さは14cmと浅い。



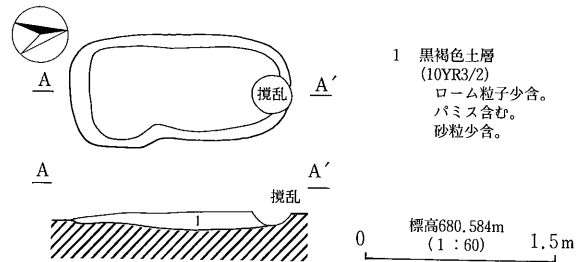
第20図 第45号土坑実測図

覆土は2層に分割された。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

15) 第46号土坑

本址は調査区中央付近東側、うー6グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、北側を攪乱によって破壊される。規模は南北174cm、東西84cmを測り、南東部分がわずかに張り出す楕円形を呈する。長軸方位はN-10°-Eを示す。確認



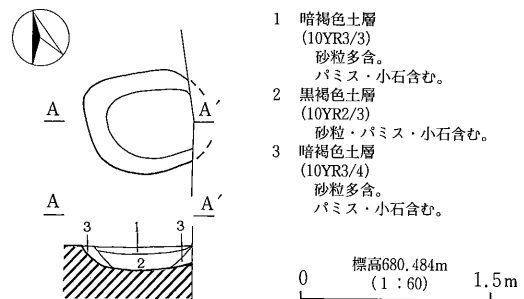
第21図 第46号土坑実測図

面からの深さは13cmと浅い。覆土は黒褐色土層1層からなる。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

16) 第47号土坑

本址は調査区東端部、いー6・7グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。他遺構との重複関係はないものの、東側が調査区外のため未調査である。規模は検出部分で南北80cmを測り、東西110cm前後の楕円形を呈するものと推定される。長軸方位はN-80°-Wを示す。確認面からの深さは20cmを計測する。



第22図 第47号土坑実測図

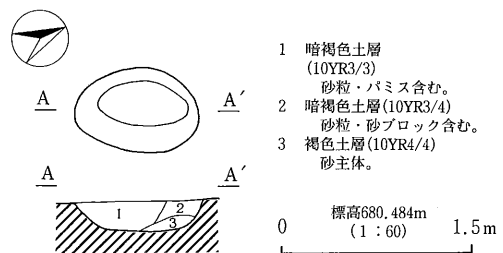
覆土は3層に分割され、自然堆積の状況を示している。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

17) 第48号土坑

本址は調査区南側、えー6グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。

Pit41と重複関係にあり、本址の方が新しい。規模は南北102cm、東西70cmの楕円形を呈し、長軸方位はN-26°-Eを示す。確認面からの深さは25cmと浅い。覆土は3層に分割



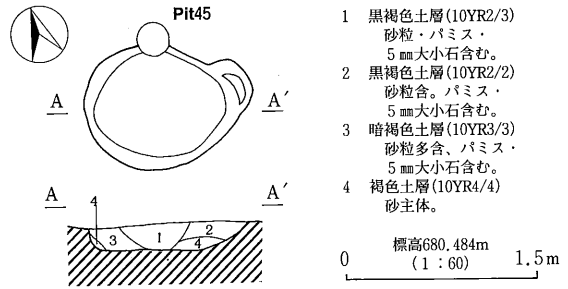
第23図 第48号土坑実測図

されたが、1層が主体を占め2・3層は北側に偏在しており、人為埋土として捉えられる。

本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

18) 第49号土坑

本址は調査区南側、え・おー7グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面で検出された。Pit45と重複関係にあり、北側の一部を切られる。規模は東西134cm、南北102cmの楕円形を呈し、東側にテラスを有する。長軸方位はN-85°-Wを示す。確認面からの深さはテラス部分で11cm、最も深い部分で24cmを計測する。



- 1 黒褐色土層(10YR2/3) 砂粒・パミス・5mm大小石含む。
- 2 黒褐色土層(10YR2/2) 砂粒含。パミス・5mm大小石含む。
- 3 暗褐色土層(10YR3/3) 砂粒多含、パミス・5mm大小石含む。
- 4 褐色土層(10YR4/4) 砂主体。

第24図 第49号土坑実測図

覆土は4層に分割された。本址からの出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

梨の木遺跡Ⅳ土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形態	規模 (cm)			長軸方位	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D32	い-2・3	(隅丸長方形)	182	—	50	N-88°-E	鉄釘1点
D33	い-3	楕円形	—	120	100	N-84°-E	学引金具1点、錐1点
D34	う・え-2	(隅丸長方形)	220	—	108	—	土師質土器1点
D35	う-2	(隅丸長方形)	—	—	85	—	
D36	え-3	(隅丸長方形)	—	124	15	—	
D37	え-3	楕円形	<120>	<88>	14	N-8°-W	
D38	い-3	楕円形	122	82	13	N-70°-W	
D39	う-3	円形	152	<148>	73	—	
D40	う-4	楕円形	<128>	88	73	N-3°-E	
D41	う-4	円形	84	<82>	53	—	
D42	う-4	隅丸長方形	120	88	11	N-2°-W	
D43	え-4・5	楕円形	174	108	58	N-0°	
D44	え-5	隅丸長方形	160	92	90	N-2°-W	
D45	う-5	円形	81	72	14	N-2°-E	
D46	う-6	楕円形	174	84	13	N-10°-E	
D47	い-6・7	楕円形	—	80	20	N-80°-W	
D48	え-6	楕円形	102	70	25	N-26°-E	
D49	え・お-7	楕円形	134	102	24	N-85°-W	

< > 内は残存値を示す。

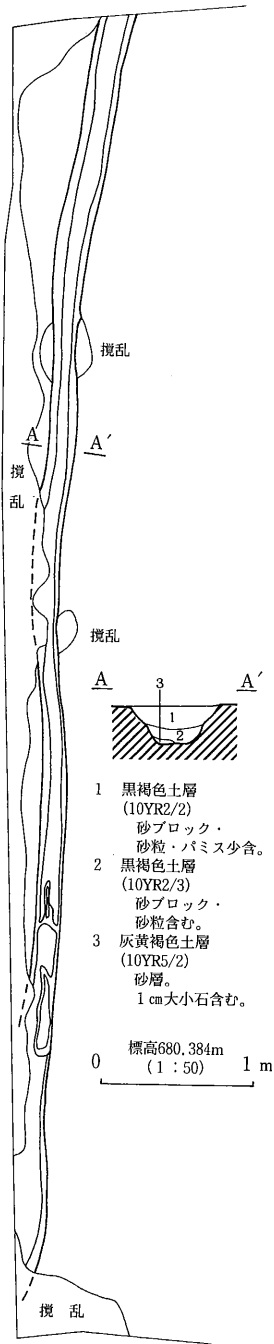


調査区外

第2節 溝状遺構・ピット

1) 第8号溝状遺構

本址は調査区西端部、か〜く-2〜7グリッド内に位置し、全体層序第Ⅱ層上面から検出された。調査区内を南北方向に直線的に縦断する形で検出され、梨の木遺跡Ⅰ第2号溝状遺構から連続する溝である。他遺構との重複関係はないものの、攪乱によって中央部分及び南端部の西側を破壊される。検出長は25.1m、溝幅は北側き-3グリッド付近が最も広く68cm、中央部分く-5グリッド付近が最も狭く40cmを計測する。深さは19〜40cmを測り、北から南に向かって徐々にレベルを低下させ、北端部と南端部の比高差は25cmを測る。覆土は3層に分割され、底面に第3層砂層がわずかに認められる。出土遺物は土師器、陶器が極く少量出土したのみである。26-1は土師器の坏で、内面に黒色処理が施される。ロクロからの切り離しは回転糸切り未調整で、底部周縁に手持ちのヘラケズリ調整が加えられる。その他には土師器甕の胴部片、陶器片がわずかにみられるのみである。



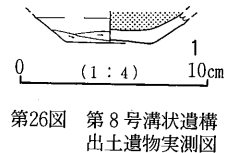
第25図 第8号溝状遺構実測図

これらの遺物は何れも細片であり本址に伴うものとは考えられず、本址の時期は確定できないが、覆土の様相から極く近代に近い時期に構築されたものと考えられる。

2) ピット

本遺跡からは総数で39基のピットが確認され、そのすべてが全体層序第Ⅱ層上面で検出された。形態は円形または楕円形を呈し、規模は径30〜50cm、深さ20〜30cm前後のものが主体である。覆土は黒褐色土あるいは暗褐色土で、ローム粒子・砂粒を含む。ピットの分布は調査区中央南側に偏在する傾向がみられるが、その配列は不規則で建物址を想定しうるものは認められなかった。出土遺物はなく、時期不明である。

各ピットの形態・規模等については、ピット一覧表に記した。



第26図 第8号溝状遺構出土遺物実測図

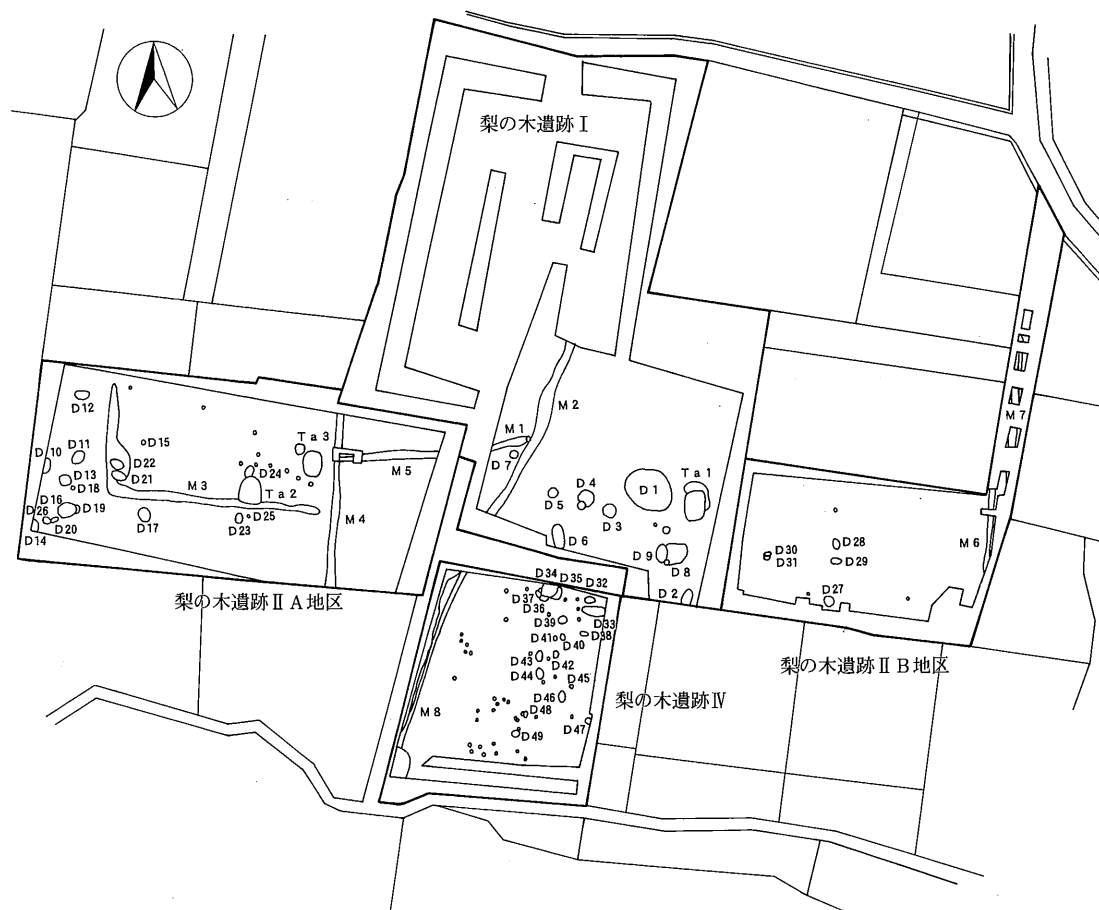
梨の木遺跡Ⅳピット一覧表

№	検出位置	規模(cm)		覆 土	備 考
		径	深さ		
P15	いー3	40×22	42	黒褐色土 (10YR2/2) 砂粒少含。 黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒含む。パミス少含。	
P16	うー3	22×20	17	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子含む。砂粒少含。	
P17	いー3	24	18	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・ロームブロック含む。	
P18	いー3	40×32	21	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P19	うー3	48×44	14	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・砂粒含む。パミス少含。	
P20	えー2	32×22	10	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子少含。10YR2/2ブロック含む。	
P21	おー2	40×38	15	黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・パミス含む。	
P22	おー3	80×54	19	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子少含。パミス含む。	
P23	えー4	40	17	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P24	うー4	28×20	13	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・パミス含む。	
P25	うー5	46×38	16	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒・パミス含む。	
P26	えー5	56×48	72	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子少含。パミス含む。	
P27	うー6	38×36	18	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・パミス含む。	
P28	かー4	42×36	18	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子含む。パミス少含。	
P29	かー4	18	9	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P30	かー4	36×32	11	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P31	かー4	46×30	22	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P32	かー4	28×26	15	黒褐色土 (10YR2/2) ローム粒子・パミス少含。	
P33	かー4	36	22	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒・パミス少含。	
P34	おー6	24×18	21	暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子・砂粒含む。	
P35	おー6	16	16	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒・パミス少含。	
P36	おー6	32×30	19	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P37	おー6	48×34	18	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒含む。パミス少含。	
P38	おー6	40×28	18	暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子多含。パミス少含。	
P39	かー6	52×32	18	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・ロームブロック含む。	
P40	かー7	50×42	26	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子・ロームブロック・砂粒含む。	
P41	えー6	84×-	36	暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子含む。	D48に切られる
P42	えー6	40×30	17	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子含む。パミス少含。	
P43	おー7	48×30	17	黒褐色土 (10YR2/3) 砂粒含む。パミス少含。	P30を切る。
P44	おー7	68×40	24	黒褐色土 (10YR3/2) 砂粒・砂ブロック含む。	P29に切られる
P45	おー7	28×26	12	黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒子・ロームブロック含む。	D49を切る。
P46	かー7	68×38	26	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P47	かー8	58×40	27	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P48	かー7	34×28	21	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P49	おー7	28	31	暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子多含。砂粒含む。	
P50	かー8	44×36	20	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P51	おー8	36×24	27	暗褐色土 (10YR3/3) 砂粒・砂ブロック含む。	
P52	えー8	38×24	33	黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒子含む。砂粒少含。	
P53	えー8	32×30	16	暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子多含。砂粒含む。	

第V章 調査のまとめ

今回の梨の木遺跡Ⅳにおいて検出された遺構は、土坑18基・溝状遺構1条・ピット39基である。出土遺物には土師器・土師質土器・陶器・鉄製品等があるが、出土量は極めて少なく遺構との共存性を窺えるものは皆無である。また、遺構においても時期を推定し得る特徴をもつものは存在しない。したがって、梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱを含めた土坑群の在り方について考えてみたい。

今回の調査で検出された土坑は総数で18基を数えるが、そのうち底面が平坦で比較的深い掘りこみをもち、壁体がほぼ垂直あるいはフラスコ状にオーバーハングして立ち上がるものは9基である。これらの土坑の分布状況は調査区内の北東部分に集中する傾向が認められ、梨の木遺跡Ⅰ・ⅡB地区で調査された土坑群（D2～6・8・9・31）から連続して存在するものである。また、梨の木遺跡ⅡA地区西端部においても同様な傾向がみられる。これらの土坑群は重複関係に



第27図 梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ全体図（1：1,000）

あるものもあり、同一時期の遺構として捉えることはできないが、規模・形態において類似性がみられることから大きな時間差をもつものではないことが窺える。また、同様な規模・形態をもつ土坑は、鋳師屋遺跡群前田遺跡第一次～第三次のA・B・C地区で調査された中世の土坑群に数多くみることができる。出土遺物には土師質土器、陶磁器類、石臼等がある。

遺構の性格については、梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱも含めて、遺構の性格を推定し得るものは皆無であるが、梨の木遺跡Ⅰ第4号土坑について、江戸時代の墓墳である北西の久保遺跡第2号特殊遺構内C土坑と形態が近似する点から墓墳としての可能性が指摘されている。この他の土坑も墓墳と考えるならば、梨の木遺跡Ⅰ・Ⅱで述べられているように当遺跡の存在する台地の南端部は、中世から近世における墓域として捉えられよう。

以上、簡単ではあるが調査の成果をまとめてみたが、依然当台地上については未解明な部分が多く、今後の調査に期待が寄せられるところである。

引用参考文献

佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財調査センター

1987 『梨の木』

『北西の久保—南部台地上の調査—』

1988 『菅田Ⅲ 新町Ⅲ 宮の上 中曾根 藤塚』

1989 『鮎沢Ⅱ 琵琶坂Ⅵ 梨の木Ⅱ 宮の上Ⅱ』

佐久市教育委員会 1989 『前田遺跡（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次）』





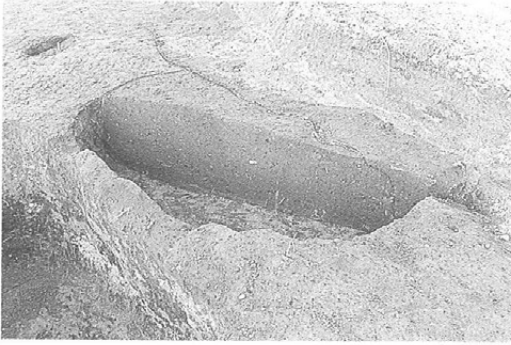
梨の木遺跡Ⅳ付近航空写真（東洋航空事業株式会社撮影C7-10）



1 梨の木遺跡Ⅳ全景（北方より）



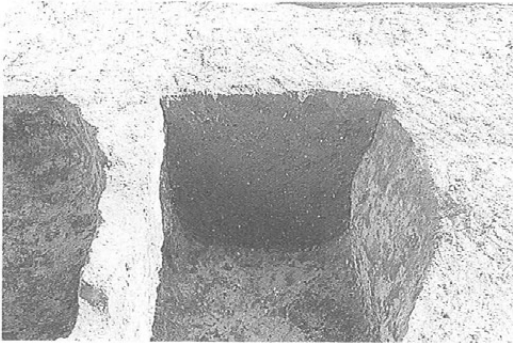
2 梨の木遺跡Ⅳ検出土坑（北方より）



1 第32号土坑土層断面 (南方より)



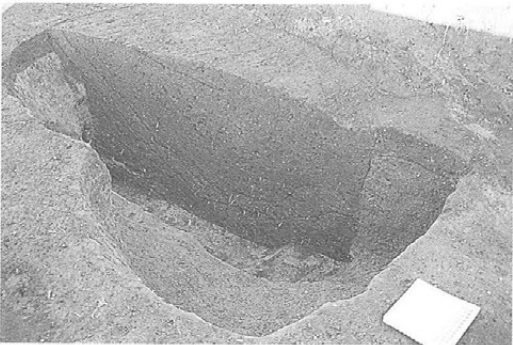
2 第32号土坑 (東方より)



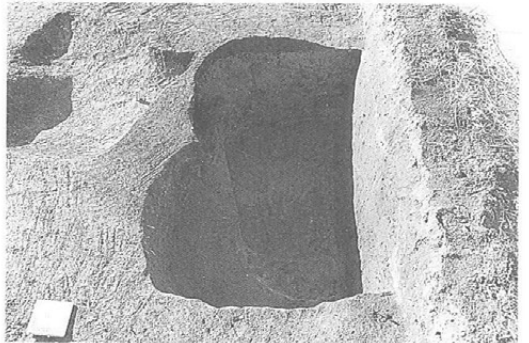
3 第33号土坑土層断面 (西方より)



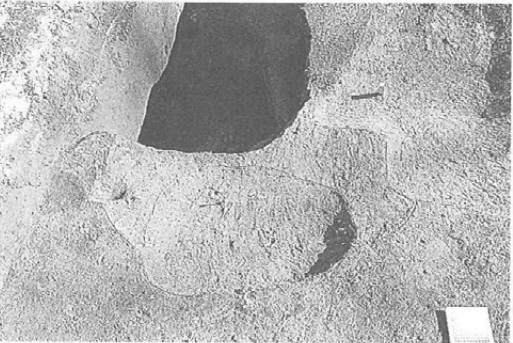
4 第33号土坑 (東方より)



5 第34号土坑土層断面 (南方より)



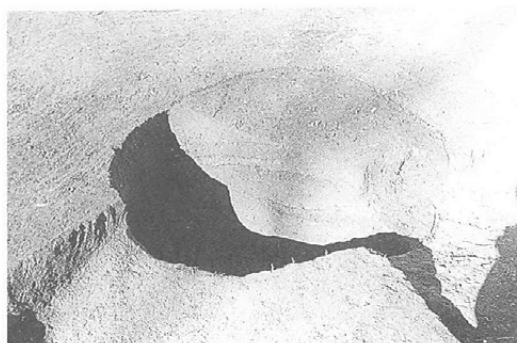
6 第34・35号土坑 (東方より)



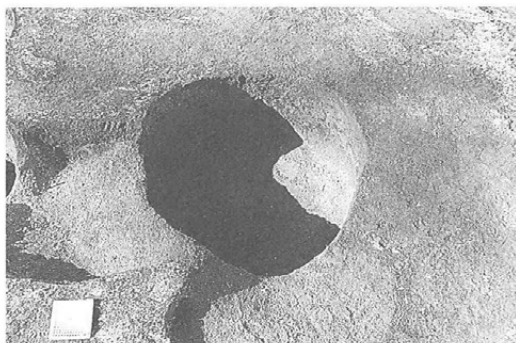
7 第36・37号土坑 (西方より)



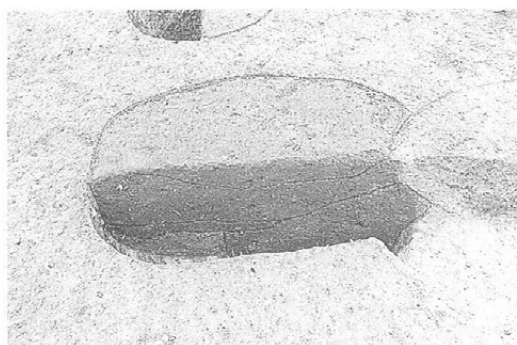
8 第38号土坑 (南方より)



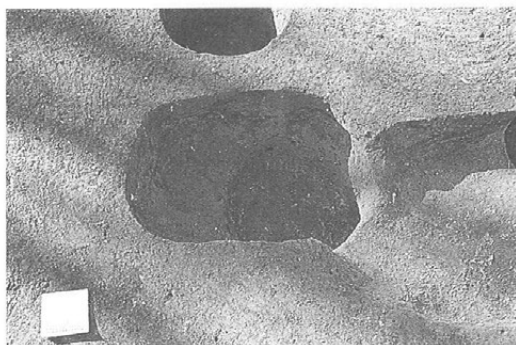
1 第39号土坑土層断面（南方より）



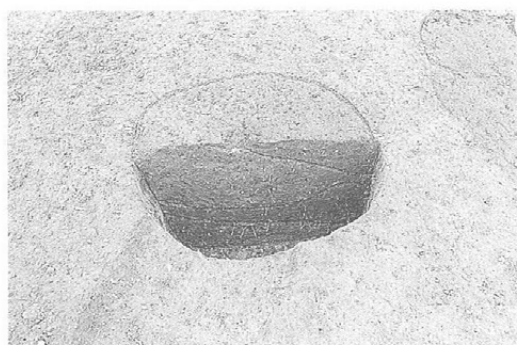
2 第39号土坑（東方より）



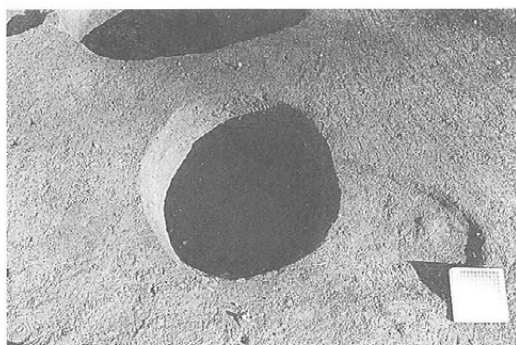
3 第40号土坑土層断面（東方より）



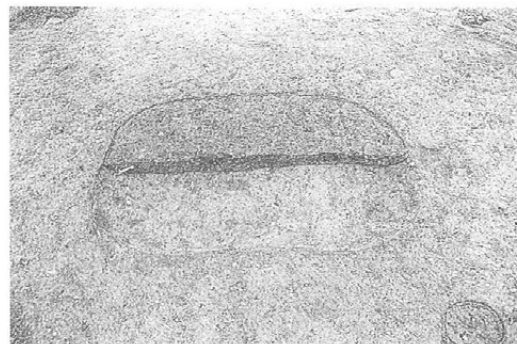
4 第40号土坑（東方より）



5 第41号土坑土層断面（南方より）



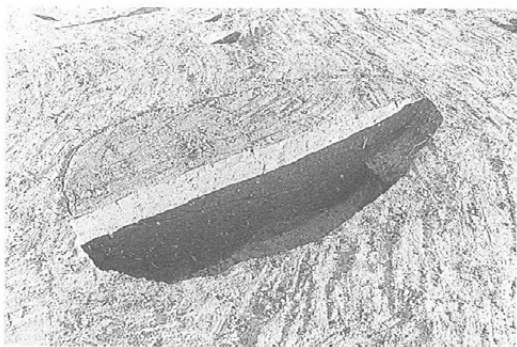
6 第41号土坑（西方より）



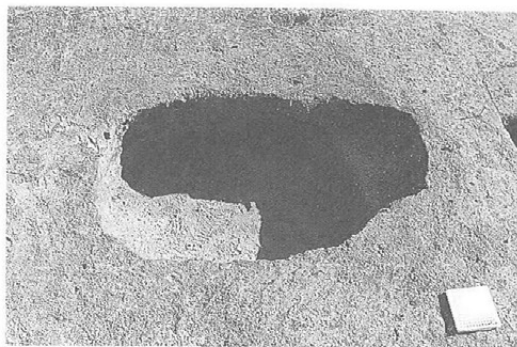
7 第42号土坑土層断面（西方より）



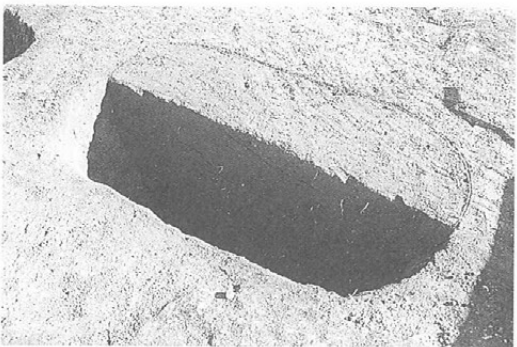
8 第42号土坑（西方より）



1 第43号土坑土層断面 (西方より)



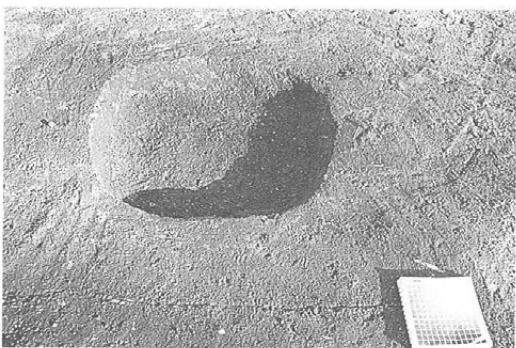
2 第43号土坑 (西方より)



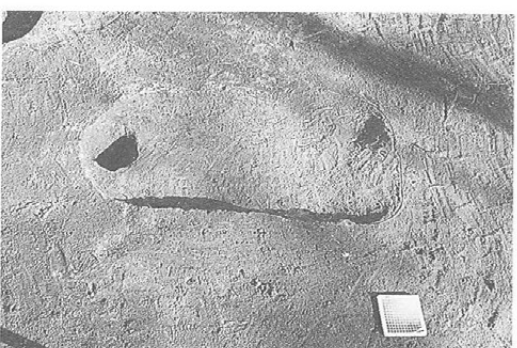
3 第44号土坑土層断面 (西方より)



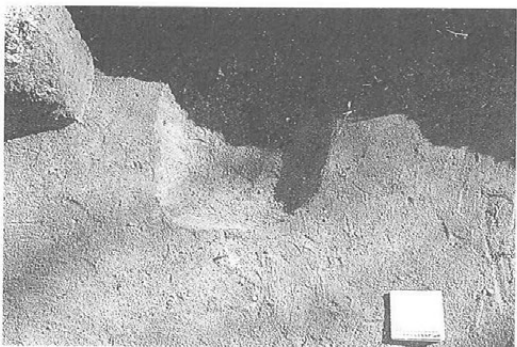
4 第44号土坑 (西方より)



5 第45号土坑 (西方より)



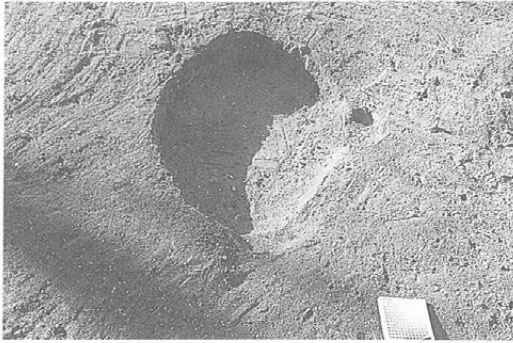
6 第46号土坑 (西方より)



7 第47号土坑 (西方より)



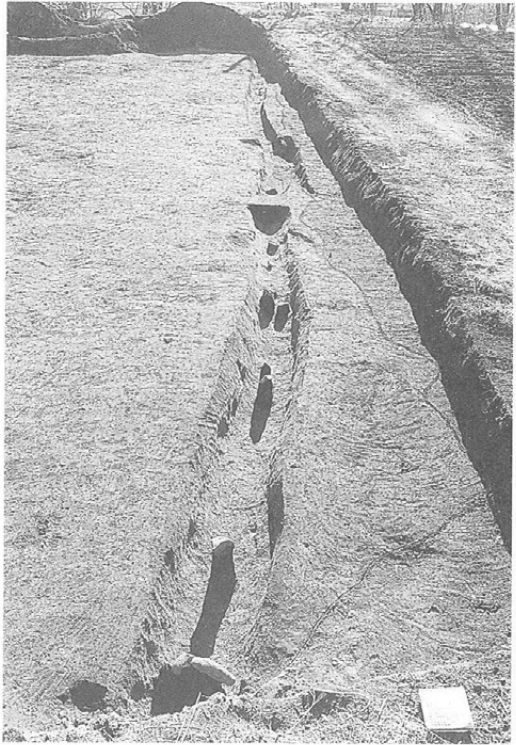
8 第48号土坑 (東方より)



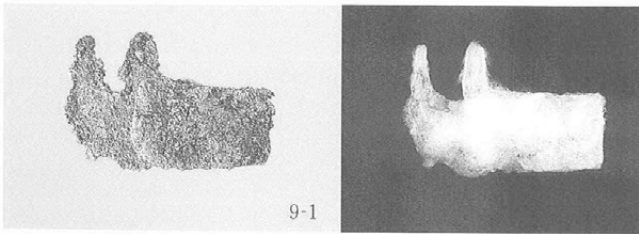
1 第49号土坑 (東方より)



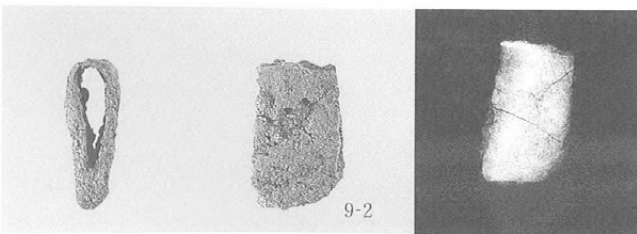
2 第8号溝状遺構土層断面 (南方より)



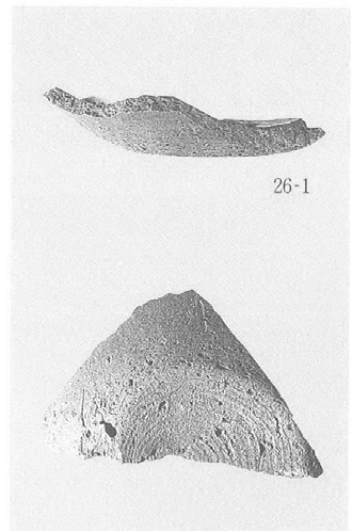
3 第8号溝状遺構 (北方より)



4 第33号土坑出土遺物



5 第33号土坑出土遺物



6 第8号溝状遺構出土遺物

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 第1集 『金井城跡』 | 第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ 前藤部遺跡2』 |
| 第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』 |
| 第3集 『石附窠址群Ⅲ』 | 第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 |
| 第4集 『大ふけ』 | 第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』 |
| 第5集 『立科F遺跡』 | 第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』 |
| 第6集 『上曾根遺跡』 | 第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』 |
| 第7集 『三貫畑遺跡』 | 第39集 『中屋敷遺跡』 |
| 第8集 『瀧の下遺跡』 | 第40集 『寺畑遺跡』 |
| 第9集 『国道141号線関係遺跡』 | 第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』 |
| 第10集 『聖原遺跡Ⅱ』 | 第42集 『寄山』 |
| 第11集 『赤座垣外遺跡』 | 第43集 『権現平遺跡・池端遺跡』 |
| 第12集 『若宮遺跡Ⅱ』 | 第44集 『寺添遺跡』 |
| 第13集 『上高山遺跡Ⅱ』 | 第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 |
| 第14集 『栗毛坂遺跡』 | 第46集 『濁り遺跡』 |
| 第15集 『野馬久保遺跡』 | 第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』 |
| 第16集 『石並城跡』 | 第48集 『池端城跡』 |
| 第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
(1月～3月) | 第49集 『根々井芝宮遺跡』 |
| 第18集 『西曾根遺跡』 | 第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』 |
| 第19集 『上芝宮遺跡』 | 第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』 |
| 第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』 | 第52集 『坪の内遺跡』 |
| 第21集 『金井城跡Ⅲ』 | 第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』 |
| 第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 |
| 第23集 『南上中原・南下中原遺跡』 | 第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』 |
| 第24集 『上聖端遺跡』 | 第56集 『聖原遺跡Ⅹ』 |
| 第25集 『上久保田向Ⅳ』 | 第57集 『高師町遺跡Ⅱ』 |
| 第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』 | 第58集 『下穴虫遺跡』 |
| 第27集 『上久保田向Ⅲ』 | 第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』 |
| 第28集 『曾根新城Ⅴ』 | 第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』 |
| 第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』 | 第61集 『割地遺跡』 |
| 第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 | 第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』 |
| 第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』 | 第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』 |
| 第32集 『東ノ割』 | |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第64集

中原遺跡群 梨の木遺跡Ⅳ

—長野県佐久市中込中原遺跡群梨の木遺跡Ⅳ発掘調査報告書—

1998年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL0267-68-7321

印刷所 (株) 佐久印刷所

